



北海道立大沼学園

〒 041-1355

北海道亀田郡七飯町字西大沼8番地

TEL 0138-67-2014

園長 米田 浩二

令和2年4月から大沼学園で働くことになった米田です。昭和59年に道職員となってから一貫して福祉の仕事をしてきました。生活保護や障がい福祉など様々な業務を経て、平成13年に函館児童相談所の児童福祉司になりました。以来、大半の期間を児童相談所で過ごし、現在に至っています。函館を振り出しに、岩見沢、中央（2回）、釧路（2回）、室蘭という勤務の中で、多くの子ども達や親御さん、関係機関の方々に出会ってきました。

今までを振り返ると「この人（子）のために力になりたいと思われ続けるか」という物差しが仕事の優劣を決めるような気がしています。「誠意を持って仕事をする」という姿勢にもつながりますが、結果が出るまで時間がかかったり、たとえ失敗に終わったとしても、「思い続けるという姿勢」や「誠意」が言動や態度、表情で伝わると相手方の理解や反応は「受入れ」や「優しさ」に変わるものと信じています（それが通用しない場合はありますが、通用しないのは自分の思いや誠意が不十分だからと言い聞かせるようにしています）。

この4月から大沼学園に来て、ふと20年近く前の中学生の非行少女のことを思い出しました。親の言うことを聞かず、夜間徘徊や外泊等を繰り返すということで一時保護になりましたが、保護所の事情で長くは保護できず、児童福祉司指導をとるという条件で家に戻りました。親子共々、児童相談所の対応に不満なのか面接を拒否される状態が1年間続く中で、前担当者から引き継ぎを受けました。私が担当になってからも親子とも会ってはいくれませんでした。関係機関への調査でその後の少女は問題なく（紆余曲折はあったようですが）生活ができていることは確認できました。せめて、本人に直接声掛けだけでもしたいと思い、執拗に連絡を続けた結果、母親が玄関先で話をしてくれました。予想通り「児相は何もしてくれなかった。児相なんかに相談するんじゃない」など批判の言葉が延々と続きましたが、「娘は（新しい環境で）〇〇先生と出会ってから様子が変わった。先生の言葉や態度で娘を本気で心配していることが伝わったのか、〇〇先生の言葉は素直に聞く。時間はかかったが、今は心配な様子はみられない。」という嬉しい様子を直接確認することができました。最後は思い切り玄関のドアを閉められましたが、私には「信頼できる人との出会いは子どもを変える力を持つ」という感慨が胸に残りました。

今年4月に学園で仕事をするようになってから、今更ながら子ども達と先生達との距離の近さと日々の関わりの大変さを強く感じています。学園のすべての子ども達についても先のエピソードの少女のように、『学園や分校の先生達との出会い』が『信頼できる大人との出会い』となり、入所中の生活や行動への良い変化、将来の成長の種づくり（人としての基礎の形成）につながることを強く願っている今日この頃です。

新任職員の紹介（新しく大沼学園に着任された職員）①

「新任職員の紹介」

今年度は、7人の職員を迎え入れました。今年度は、湖畔第1号から第3号で、数名ずつ自己紹介をしていく形としました。

職・氏名	前所属
園長 米田 浩二（よねた こうじ）	室蘭児童相談所
主査（心理療法） 鈴木 大介（すずき だいすけ）	旭川児童相談所
主査 多田 将士（ただ しょうじ）	室蘭児童相談所
専門主任 山口 大輔（やまぐち だいすけ）	釧路児童相談所
児童自立支援専門員 渡部 準矢（わたなべ じゅんや）	新採用
福祉指導員 佐藤 秀介（さとう しゅうすけ）	新採用
主事 三澤 快斗（みさわ かいと）	後志総合振興局保健環境部余市社会福祉事務出張所

「私にできること」

主査（心理療法）鈴木 大介

この4月から大沼学園の心理療法を担当することになりました鈴木です。ここに着任する前は児童相談所で心理判定員と児童福祉司をしまして、児童相談所で担当していた子と、こんな形で再会することになるとは思ってもみませんでした。

大沼学園には幾度か訪問する機会があり、自然豊かな環境に囲まれていることや、運動会や学園祭の時の子ども達のエネルギー、周りの先生方の一体感などを目の当たりにし、子どもにとって環境というものがいかに大事なのかを痛感していました。子ども達はこうした恵まれた環境の中、日々生活していくことでどんどん成長していきますが、私ができることとして、その中のごく一部の時間をもらい、新しい何かに対する「気づき」を促すことができればと考えています。

入所から退所するまでの限られた時間の中で、子ども達と接する時間は寮や学校の先生方に比べ圧倒的に少ないですが、子どもにとって少しでも心が和ぐ時間を過ごせるよう努めたいと思います。

「よろしくお願いします」

主査（本館） 多田 将士

4月に室蘭児童相談所より大沼学園に着任しました多田と申します。

児童相談所では、一時保護係長をしておりました。一時保護では1歳から17歳までの、入所理由も様々な子供たちが保護されます。入所期間は原則2ヶ月までとなっており、短期間で子供たちが入退所していきます。1年では百人以上の子供たちが入退所しておりました。大沼学園にも多くの子供たちが入所して行きました。

大沼学園では、大変さ、困難さの種類が違うかと思えます。職員の皆様からいろいろと教えていただき、対応していこうと思えますので、よろしくお願いします。



新任教諭の紹介（新しく鈴蘭谷分校に着任された先生）

七飯町立大沼岳陽学校鈴蘭谷分校 教頭 村井 雄一

この度、七飯町立大沼岳陽学校鈴蘭谷分校の教頭として赴任いたしました。豊かな自然に恵まれた環境で、子供たちの心身の成長のために日々尽力されている学園職員の皆様と、教職経験が豊富な分校の教職員が力を合わせ、これからの時代を自らの力で生きていくための「知恵」と「心」と「身体」を兼ね備えた逞しい子供たちを育てていく鈴蘭谷分校での毎日の取り組みに、とてもやりがいを感じているところです。これからも「目の前の子供たちのために」という初心を忘れずに取り組んで参ります。どうぞよろしくお願ひいたします。

七飯町立大沼岳陽学校鈴蘭谷分校 教諭 戸田 修

4月に鈴蘭谷分校に赴任し、過去の勤務校とは様々な面で大きく異なる環境に戸惑いもありました。しかし、コロナウィルスによる1か月半の臨時休校。教壇に立てないもどかしさを痛感し、『自分は教師としての務めをしっかりと果たす』という意識を学校再開以降、さらに強めています。本校では複雑な背景を抱えた様々な子どもたちがいますが、彼らとここで出会ったことに大きな意味があります。彼らと向き合い、彼らが将来に向けて一歩でも成長していくために、自分には何ができるかを考えてトライし、私自身も成長していきたいものです。まだまだ不慣れですが、分校の同僚や日々奮闘されている学園職員の皆様とともに、今後も力を尽くしていく所存です。

七飯町立大沼岳陽学校鈴蘭谷分校 教諭 小林 義治

鈴蘭谷分校に赴任して2か月が過ぎました。新型コロナウイルス禍の影響で、児童生徒との関係を深める遠足や運動会などの行事がすべて中止となり、なかなかみんなと親交を深めきれないことにもどかしさを感じています。コロナの自粛がすべてなくなり、鈴蘭谷分校の自然を満喫しながら、日々子どもたちと学んでいければと思います。また、学園の職員さんとの連携が密で、学校での出来事、寮での出来事がすぐに情報交換ができ、日々の授業に生かすことができ鈴蘭谷分校の良さを感じています。今後も、分校の職員、学園の職員の皆様と連携を深めて頑張っていきたいと思っています。

七飯町立大沼岳陽学校鈴蘭谷分校 教諭 松本 徹

4月の異動で、七飯町立七飯中学校より赴任してきました。一昨年、函館市立桔梗中学校で定年をむかえ、再任用2年目となります。赴任早々、新型コロナウイルスによる休校で出鼻をくじかれましたが、やっと再開できるということで、気持ちを新たに頑張りたいと思っています。鈴蘭谷分校は自然に恵まれ、その素晴らしい環境の中で、子どもたちも明るく元気に成長していると思います。微力ではありますが、子どもたちのために自分の責務をしっかりと果たし、尽力していきたいと思っています。

七飯町立大沼岳陽学校鈴蘭谷分校 教諭 佐藤 廣賢

教員をスタートさせた学校が、児童養護施設から通学する生徒がほぼ全員でした。そのことを思い出し、初任の時の気持ちを思い出しています。教員生活は19年目になりましたが、初心に帰り、自分自身もすべてのことを見直していきたいと感じています。

大沼の素晴らしい環境の中で、できる限り貢献していきたいと思っています。ご迷惑をおかけすることが多くあると思いますが、どうぞよろしくお願ひします。



令和元年度卒業生激励会

福祉指導員 平田 俊一

3月18日、新型コロナウイルス拡大もあり、感染予防のため、例年通りの規模での開催には至らず、少しもの寂しい雰囲気となりましたが、激励会では、中学3年生を気持ちよく送り出すべく、美味しい食事と様々な催し物を準備し、各寮それぞれダンスやお笑い、無言劇など趣向を凝らした余興で卒業生を楽しませてくれました。最初は照れくさそうに緊張して座っていた子ども達も会が進むにつれ肩の力も抜け、とても楽しそうに、そしてどことなく寂しそうに笑っていたように見え印象的でした。

最後のスライドショーについては、今年度鈴蘭谷分校の先生方が、新型コロナウイルスの感染拡大を防止するため欠席された代わりに、熱いメッセージビデオをいただき、笑いあり涙ありの時間を楽しんでもらえたようで、担当者としても安堵しました。

私自身もわずか1年という短い時間でしたが、子どもたちと共に、いろいろな時間を過ごしてきたのだなと思ひ出させられる行事となりました。今年度の催し物についても今から考えてわくわくしています。

芝蘭寮では毎年、ダンスをやっています。今回のダンスは何年か前にやった「Someday」を踊りました。練習でトラブルや口論があったりしたんですけど、最終的には、良いダンスを作り上げることが出来ました。

今回で2回目だったんですけど、去年よりも出来たときの達成感は大きかったですし、とてもうれしかったです。なので今年もそう思えるようにみんなで練習をしたいと思います。

中3 T君

令和元年度卒業証書授与式

福祉指導員 平田 俊一

3月19日、昨今のコロナウイルスの感染拡大により、時間や参加者の制限、マスクの着用など、一生に一度しかない中学の「卒業証書授与式」が例年とは違う形で実施されました。参列された保護者の皆様、また退園生の皆様には非常に申し訳ない気持ちでいっぱいでしたが、今年も無事に終了しました。

各在籍校からの卒業証書を受け取り、彼らはどういう心境だったのだろうと思ひ返します。「やっときつい学園生活も終わりだ」「あっという間だったな」「自分の中で何か変わったのだろうか」「先生たちに申し訳ないことしたな」など、いろんなことが想像されますが、1つだけ全員の心境として共通している物があるのではないかと思います。それは「今後の不安」です。今まで良かれ悪しかれ、何かあったときには学園職員はもちろん、児相の先生や保護者が親身にその子どものために話に耳を傾け、時には厳しく叱る、時には励まし涙を流すこともあったと思いますが、今後はそうはいかないのが現実です。自分自身が小さい人間なんだとどれだけ自覚して、自身を振り返り、謙虚な気持ちで日常を過ごすことが出来るか。またそれに気づくのが、次のステージですぐなのか、5年後なのか、10年後なのか…。

いつか芽吹くであろう退園生の本当の意味での「春の訪れ」の知らせが来ることを心より願っています。本当に卒業おめでとう。お疲れ様。

私は、中学3年生を卒業しましたが、実科生として動いていると、楽しいことと辛いことがあります。楽しいことは、芝刈り機を使うときです。理由は、エンジンをかけて、そのエンジン音がかっこいいのと、芝を刈っていくとキレイになっていって、やりがいを感じます。辛いことは、時間に遅れたり、芝刈り機の洗いに時間がかかることです。私は、この学園で頑張ります。

実科生 K君



各寮紹介

芝蘭寮

寮長 斉藤 利昭

昨年度の退園生は2名。今年度は6名のスタートです。今年度は新型コロナウイルスの影響により、4月7日の始業式から2週間もしないうちに分校が休校となり、5月25日の分校再開まで1ヶ月以上も学園日課となりました。この間、学園職員が本館での課題学習、クラブ活動、全体レク、そして寮活動場面など、本当に良く対応してくれました。そのおかげで子どもたちは、コロナストレスを感じることなく、不自由な思いはしなかったと思います。そのような意味では、ここの子どもたちは恵まれています。子どもたちが楽しみにしていた買い物訓練やGW中の園外活動もほぼ中止となりましたが、唯一小沼・大沼周辺のサイクリングだけは実施しました。春の心地よい気候の中、小沼大沼、駒ヶ岳を眺めながらのサイクリングはとても気持ちの良いものでした。世界的にも大変な影響をもたらした新型コロナウイルスの早期の終息と、全ての方々が1日も早く日常の生活を取り戻すことが出来るように節に願っております。

さて、当園は昨年より寮舎運営が変わり、3寮のうち2寮が交替制へ移行しました。昔はそれぞれの夫婦寮がそれぞれの寮の特徴を持ち、「うちの寮は…」と言った具合に良い意味で競い合っていたような感じでした。寮舎内外の環境整備や清掃、除雪にしても「他の寮に負けなくらいきれいにしよう」と子どもに投げ掛けていました。寮舎の運営は違っても、それぞれの寮が良い意味で特徴を出していけるように、うちの寮が牽引していければ良いと感じています。私たちも大沼学園100年を越える歴史の中で、最後の夫婦寮として果たすべき役割と責任感を感じながら、日々の運営に携わっていきたいと感じております。

蛍雪寮

寮長 片石 健太

令和元年8月、大沼学園の歴史の中で交替寮として新たな一歩をスタートし、今年で2年目になります。現在は6名（小学生1名、中学生4名、中卒生1名）での運営になっています。交替寮というものを手探りで模索し、その模索した物を実践していく2年目にしていきたいと思います。その中でも、私が心の中で常に忘れずにいる2つの言葉があります。

「子どもの良き相談相手となること」「見られてなんぼ、見せてなんぼ」

これは大沼学園の諸先輩方から頂いた言葉です。大沼学園の長い歴史の中で、我々は諸先輩方の思いを受け継ぎ、子ども達の声に耳を傾け続けねばなりません。人が変わっても、子どもが変わっても、社会が変わっても、この言葉が、蛍雪寮に、大沼学園に、脈々と受け継いで行かれるよう、努力して参ります。

令和2年度は、新型コロナウイルスの影響により、たくさんの行事等の予定を変更せざるを得ない状況にあります。その中でも、日々の生活の中で些細な楽しみを子どもと見つけて行ければと思います。今後とも、大沼学園をよろしく願います。

晩翠寮

寮長 平田 俊一

昨年4月、元号が「平成」から「令和」となったこの年、北海道立大沼学園は小舎夫婦制から交替制を含む運営体制へと変更され、現在は6名（小学生1名、中学生5名）、職員8名で運営しております。

寮長としての風当たりも強く感じる毎日を過ごしておりますが、その不安やプレッシャーをはねのけるように、大沼学園の地に足を付けて生活をしている子どもたちが、何も知識や経験の無い私を「先生」と呼んでくれることが何よりの仕事の励み、燃料になっています。

私は子どもたちと関わる上で、専門資格者や施設経験者が必ずしも専門性があるとは思わなくなりました。子どもの声によく耳を傾けることができる人、自身を振り返ることのできる人こそが専門性を有していると思わざるを得ません。よく話し、よく遊ぶことのできる人。子どもからの信頼を勝ち取らなければ、知識、技術は「無用の長物」となってしまうような気がします。そしてそれを今、晩翠寮で必死に生活している6名の子どもたちが証明してくれているような気がします。

それぞれの寮が良い意味で競い合うことができるよう、日々の運営に携わっていきたいと感じております。今後とも大沼学園をどうぞ宜しく願います。

休校期間も頑張りました！

子ども達の作文 ～Part 1 (中学3年生編)～

「野球部のキャプテンになって」

僕は野球部のキャプテンになり、自分の苦手な人をまとめる力というのが僕には無いので、この機会を使って自分の苦手なことを克服して、先生方の期待や信頼を裏切らないようにしたいです。今の現状、チームとしてはあまり良くない状態なので、自分がリーダーシップを發揮できるようにして他の中学校のチームに勝ちたいです。最後に、今自分を支えてくれている先生方、チームメイトに感謝し全力プレーを心がけたいです。

中3 Y君

「最上級生として」

僕は昔、与えられた当番はやらず、人に任せっきりでした。そんな僕がここに来て学んだことの一つが、その当番の事についてです。具体的にどういった事を学んだかということ、自分がやらなかったら誰かが困る、そういう考えに変わり、今ではしっかりと与えられた当番をしっかりとこなし、時間内にテキパキと終わらせる事が出来ました。

僕は中3になり、予定では来年の三月には退園です。しっかりと残りの期間、さっき言った当番にプラスして自分のやるべき事をしっかりとやる、ということ意識して生活したいと思います。

中3 T君

「僕の住んでいる蛍雪寮」

僕は蛍雪寮という寮で生活しています。今は7人で生活しています。僕が大沼各園に入所してきたときは自分一人だけの寮でした。家事は、その日の勤務の先生と3人で全部やっていました。スポーツをするときは、3人しかいなかったのでも、出来るスポーツが限られていました。

ですが、7人にもなると、先生が家事をすることはなくなり、7人で役割分担をして、生徒だけで行っています。スポーツをやるときは、チームで戦う競技が出来るようになりました。

集団生活はとても大変です。常にお互いのことを考えて生活しなければなりません。ときには喧嘩になったりします。僕が入所してきた頃は、先生が7人と僕だけだったので喧嘩も起こりようがありませんでした。

新しい人が寮に入る度、寮の雰囲気は変わってきます。一番最初から見ているので、とても変化を感じます。でも、どんな状況でも蛍雪寮は蛍雪寮です。一番長く生活している僕が、みんなを引っ張っていこうと思います。そして大沼学園での生活を通して、「以前のクソな自分」を少しでも直していきたいと思っています。

中3 S君



お世話になりました

退職

(令和2年3月31日付)

大國 伸夫

異動

(令和2年4月1日付)

三浦 辰也

岩見沢児童相談所

折出 茂樹

岩見沢児童相談所

佐藤 勇介

保健福祉部施設運営指導課

関口 聖人

保健福祉部子ども未来推進局子ども子育て支援課

難 有

前園長 三浦 辰也

2020年3月末をもちまして定年退職によって大沼学園を離れることとなりました。2015年6月旭川児童相談所からの着任でした。私は民間の児童養護施設から道職員に採用になったのは、1990年の11月です。道立向陽学院を皮切りに4カ所の児童相談所を経験させて頂きましたので、女子と男子の自立支援事業に関わらせて頂きました。先輩が「男子教護はいいぞ。生まれ変わっても同じ仕事に就きたい」と話されていたことが私も実感として思うのです。約5年間の大沼での単身赴任生活でした。

私の周りにはいつもたくさん子どもたちの声が聞こえていました。どの子どもたちの顔を思い浮かべても、たくさん笑ったはずなのに、たくさん遊んだはずなのに泣きっ面の顔、悔しそうな顔しか思い浮かばないのです。本当に子どもたちの声が聞こえていたのだろうかと自問自答してしまうのです。家庭・児童相談業務にあたる児童相談所職員は担当地区を奔走しています。彼らに「最後は大沼学園が子どもを受け止めてくれるんだ」と思いっきり仕事してもらうために私たちの施設はあります。この信頼を失わないように努めなければなりません。

家庭学校校祖留岡幸助は「愛是最堅之牆壁也」と今日も色あせることのない理念的モデルを見いだしました。「凡夫の最大限の努力」もまた然りです。「開放処遇」にあって、子どもに誠実に向き合う姿勢、決しておごることのなく、自らは「小さき者」であるという謙虚さを持ち続けてほしいと思います。施設名称が「教護院」から「児童自立支援施設」に変更になりましたが、未だ支援モデルを明確に打ち出すことができないことや対象児童が「非行児」から「発達障がい」や「虐待の後遺」に苦しむ子どもたちが多くを占める中において道立大沼学園の役割は益々期待が高まっています。それはここ数年の入所率が7割を超えることが示しています。前年度の「がくえんのようす」には「平成31年度大沼学園運営指針」を掲載しました。そこには向こう30年のプランが示されています。肅々と、時に応じ、着実にプランの実現に向けて歩みを止めることなきよう願っています。

私には楽しみなことがあります。今、学園で児童支援にあたっている若き職員らの行く末です。彼らは恵まれた環境にいます。豊かな地に種は蒔かれています。ここを豊かな地と思うのか、芽も吹かない荒地と思うのか、その情景は職員一人一人の心の内にあると思うのです。やがて彼らが保健福祉部行政の中核となり、道民を支える道職員としての道を歩むことを願っています。この職員らのところに、学園を慕い退園した子どもたちが訪れる機会があることを想像すると胸が高鳴るのです。

大きな変革の時代。道本庁保健福祉部の皆様にはたくさん支えて頂きました。恵まれた自然に包まれた大沼学園は、苦悩の中にある子どもたちを包んでくれます。学園を支えてくださる方達、おひとりおひとりに感謝を申し上げます。これからも、子どもたちや学園職員を支えてくださいますよう切に願います。私も学園の応援をするひとりになりたいと思います。難有。

ご寄付食品等

皆様のご厚情に心より感謝申し上げます。

(3月1日～6月30日) *敬称略

阿部正明 様 (大阪府) ケルン 様 (森町) 鈴木啓斗 様
木村秀樹 様 (八雲町) 佐藤隆三 様 (七飯町) 澄マサノ 様 (函館市)
北斗更生保護女性会 様 (北斗市) 七飯更生保護女性会 様 (七飯町)
大中山保育園 様 (七飯町) 石屋製菓 様 戸田建設 様 大沼町内会 様 (七飯町)
福島中学校 様 茂辺地中学校 様 函館心の里親会 様
ホクレン農業連合会 様 共立製菓 様

編集後記

今年度は、新型コロナウイルスの影響により休校期間は長くなる一方で、運動会や遠足、東北地区少年野球大会など、例年実施していた様々な行事が中止になり、子ども達にとっては園内での生活が長く続きました。そんな中でも、子ども達は一生懸命に寮生活を送り、仲間と遊び、持て余したエネルギーを生活の中で存分に発揮しています。そんな子ども達に負けじと、我々職員も共に学び、遊び、成長していこうという気持ちで日々の業務に励んでいます。子ども達が、大沼学園で様々な思い出を作り、成長し、ここを巣立ってくれることを願いながら、業務に取り組む日々です。

初夏に入り、これまで実施出来なかった分と、職員一丸となって多数の行事を企画しています。子どもと職員が共に成長し、楽しみ、成長し合えるように心がけています。

子ども達や、我々職員が伸び伸びと出来るのは、支えてくれている関係機関の皆様、地域の皆様、保護者の皆様のおかげであります。寮体制、職員が移り変わる中で、変わらぬ伝統を守りながら、子ども達の為に支援に当たっていきたいと思います。今後とも、応援よろしくお願い致します。

児童自立支援専門員 松山 一也



学 園 の 動 向

令和2年3月～6月

3月

※新型コロナウイルス感染症対策のため鈴蘭谷分校は2月27日から休校

4日 昼食金工室前でジングスカン

6日 昼食金工室前で焼肉

9日 園長講話（分校休校対応）

職員が本館で学習指導（午前、分校休校対応）

12日 課長講話（分校休校対応）

17日 公立高校合格発表 先に合格した特別支援学校1名を含む4名合格

18日 卒業生激励会

19日 卒業証書授与式（新型コロナウイルス感染症対策として、卒業生とその保護者、在校生、分校教職員、学園職員のみ参加限定で実施）

24日 修了式 離任式（分校教員5名、学園職員6名）

25日 分校春休み 支援会議 職員会議 次年度の職員配置及び事務分掌を確認

27日 旭川児相高松由香児童福祉司、山口栄之児童福祉司、埴志穂児童福祉司児童移送及び面接調査のため来園

31日 学園職員退職及び異動辞令
（3月：入所1名／退所6名）

4月

1日 米田浩二園長、佐藤秀介福祉指導員、渡部準矢福祉専門員着任（以上学園）
村井雄一教頭、戸田修教諭、小林義治教諭、佐藤廣賢教諭、松本徹教諭着任（以上分校）

2日 札幌市児相塩見菜葉児童福祉司面接調査のため来園 多田将士主査着任

3日 室蘭児相横山貴之児童福祉司、松田知樹福祉指導員児童移送のため来園

6日 山口大輔専門主任着任

7日 着任式及び1学期始業式 鈴木大介主査着任

13日 授業参観日

15日 医学診断（加藤囑託医）

16日 新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づく緊急事態宣言政府発出 北海道は他の12都府県とともに特定警戒都道府県に指定

17日 七飯町教育委員会は、政府の新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づく緊急事態宣言政府発出を受け4月20日から5月6日まで、町内の小中学

校及び義務教育学校を休校措置 当分校も同様のため園長以下関係職員対応検討の結果次週から学習指導とクラブ活動を軸とした日課を展開することとした

30日 「運動会中止のお知らせ」（分校と連名）及び「新型コロナウイルス感染症の対応について」

（4月：入所2名／退所1名）

5月

1日 七飯町教育委員会が臨時休業を5月10日まで延長 当分校も同様

2日 晩翠寮園外活動（湖畔サイクリング）

3日 芝蘭寮園外活動（湖畔サイクリング）

5日 蛍雪寮園外活動（湖畔サイクリング）

8日 七飯町教育委員会が臨時休業を5月31日まで延長 当分校も同様

13日 室蘭児相横山貴之児童福祉司、佐々木史織児童福祉司児童移送のため来園

14日 室蘭児相佐藤雅司児童福祉司、尾形千秋児童福祉司児童移送のため来園

18日 分校今週は3日間、日に3コマ学習指導実施

20日 函館児相椎野秀基児童福祉司、小林太郎児童福祉司、三浦聖判定員面接調査のため来園 新規採用職員I（前期）研修（ネットワーク回線で実施 ～28日鹿嶋直人福祉指導員、渡部準矢福祉専門員、佐藤秀介福祉指導員）

23日 昼食各寮屋外ジングスカン

25日 分校今週は午前のみ学習指導実施

28日 芝刈り機実務講習（中3生対象）
（5月：入所2名／退所0名）



6月

- 1日 衣替え 本日から分校の学習活動が再開
- 4日 全道児童相談所長会議（函館児相／園長） 実科職員児童による函館児相の花壇整備実施
- 5日 尿検査（1次）
- 8日 元園長家村昭矩氏所用のため来園
- 9日 係長・主査会議
- 10日 運営会議 職員会議 避難訓練
- 12日 中央児相勝沼智子児童福祉司、海野寿児童福祉司児童移送のため来園 札幌市児相高田義久児童福祉司、本田祐亮児童福祉司、林祐輔児童心理司、成瀬千香児童福祉司面接調査のため来園 旭川児相塙志穂児童福祉司、神成和江児童福祉司、高松由香児童福祉司、大森勲児童福祉司面接調査のため来園



- 15日 避難訓練（分校）
- 16日 帯広児相黒龍美紀所長、中村育恵子ども支援課長面接調査のため来園
- 17日 支援会議 給食会議 医学診断
- 22日 内科検診
- 23日 岩見沢児相加賀谷洋輔児童福祉司、齊藤公伸判定援助係長児童移送のため来園 函館児相上戸恵児童福祉司、横山理恵子児童福祉司面接調査のため来園 札幌市児相寺本光佑児童福祉司、林祐輔児童心理司面接調査のため来園 室蘭児相佐藤雅司児童福祉司、佐々木史織児童福祉司面接調査のため来園
- 24日 尿検査（2次）
（6月：入所2名／退所0名）

